

角田文衛博士年譜

1913年（大正2） 当歳

4月 福島県伊達郡桑折町字北町62番地に、父・文平、母・ふみの長男として出生。

1915年（大正4） 2歳

この年、妹多美誕生。

1917年（大正6） 4歳

1月 祖父・林兵衛（諱は種徳、元貴族院議員）脳出血により逝去（満62歳）。

1918年（大正7） 5歳

4月 弟・文次誕生。7月 父、山八銀行を創立し、頭取に就任。

1919年（大正8） 6歳

4月 桑折町立桑折幼稚園に入園。まもなく退園。

1920年（大正9） 7歳

早春 麻疹を患う。4月 桑折醸芳尋常高等小学校に入学。

1921年（大正10） 8歳

春 母に伴われて初めて上京。

1924年（大正13） 11歳

9月 仙台市立片平丁尋常小学校に転校。

秋 吉木文平氏（東北帝国大学理学部岩石鉱物鉱床学科卒。のち旭硝子(株)研究所所長）を家庭教師に迎える（翌年まで）。

1925年（大正14） 12歳

北垣恭次郎著『国史美談』全3巻（1918～1920）を耽読。

1926年（大正15） 13歳

3月 仙台市立片平丁尋常小学校卒業。4月 宮城県立仙台第一中学校入学。

1927年（昭和2） 14歳

夏 父と共に上京。一誠堂書店で『国史大辞典』、その他の歴史書を購入。箕作元八著『西洋史新話』6冊を耽読。

1928年（昭和3） 15歳

夏 福島県伊達郡半田村（現在：桑折町）の岡半田遺跡において初めて石器を採集。

秋 喜田貞吉博士より、東北帝国大学法文学部奥羽史料調査室への出入を許される。

1929年（昭和4） 16歳

4月 侑史学会に入会。この頃より、山内清男氏の下で宮城県柴田郡槻木町（現在：柴田町）の槻木貝塚、宮城県宮城郡七ヶ浜村（現在：七ヶ浜町）の大木冨貝塚等、発掘調査を手伝う。

5月 仙台第一中学校弁論部主催春季討論大会において、論題「源平両氏はいづれが優れるや」の討論終了後、「氏流の多い両氏を単純に比較すること自体正確さを欠く」と論題そのものを批判した。

仙台第一中学校の弓道部選手として主将・武田豊氏（のち新日本製鉄(株)社長）の下で大いに努む。また軍事教練の合間に、仙台市の陸奥国分寺跡や三神峯遺跡において古瓦、石器、土器片を採集。日曜日毎、宮城県名取郡高館村（現在：名取市）の金剛寺貝塚に出掛け、石器の採集に努めた。

1930年（昭和5） 17歳

4月 宮城県立仙台第一中学校第5学年退学。上京して受験勉強のため研数学館に通学。その傍ら、東京帝国大学理学部人類学教室・八幡一郎助手の指導を受ける。

1931年（昭和6） 18歳

4月 成城高等学校文科乙類入学。

6月 成城高等学校校友会誌『城』第6号に初めての論文「伊達の読方の史的考察」を発表。

- 7月 京都帝国大学考古学教室を訪ね、和服姿の濱田耕作（青陵）教授に初めてお目にかかる。
- 8月 伊達、信夫両郡にわたって石器時代の遺跡を踏査し、結果を報告集にまとめる。福島県伊達郡伊達崎村伊達崎（現在：桑折町）において、老年期の信夫ヶ浦の地質状態を調べるため発掘。
- 11月 甲野勇氏の下で神奈川県都筑郡都田村（現在：横浜市）の折本貝塚の発掘に従事。
- 12月 福島県伊達郡半田村（現在：桑折町）の南薩摩遺跡第1次発掘調査。
- 1932年（昭和7） 19歳
- 2月 成城高等学校校友会誌『城』第7号に翻訳「No.56」を、また同号にアルフレッド・ドゥ・ミュッセの詩の翻訳を掲載。
- 3月 南薩摩遺跡の第2次発掘調査。
- 7月 成城高等学校校友会誌『城』第8号にポーリス・ピリニヤック作「手についた土」の翻訳（英語からの重訳）を掲載。
- 8月 南薩摩遺跡の第3次発掘調査。
- 10月 成城高等学校校友会誌『城』第9号に小説「タンタルスの踊」を発表。
- 1933年（昭和8） 20歳
- 2月 成城高等学校校友会誌『城』第11号に小説「荆棘」を発表。
- 5月 成城高等学校校友会誌『城』第12号に小説「退屈な悲劇」を発表。成城高等学校成城地歴研究会の費用で神奈川県三浦郡浦賀町（現在：横須賀市）の谷戸貝塚を発掘調査。
- 7月 成城高等学校校友会誌『城』第13号に「近代における女性憎悪の潮流」を発表。
- 8月 福島県伊達郡小網木村（現在：川俣町）の大日平遺跡を発掘調査。
- 11月 京都帝国大学濱田耕作博士夫妻に随伴して奈良県高市郡明日香村の石舞台古墳の清掃を見学。そこで初めて末永雅雄氏に会う。
- 1934年（昭和9） 21歳
- 3月 成城高等学校文科乙類卒業。
- 4月 京都帝国大学文学部史学科入学。
- 8月 福島県信夫郡庭坂村（現在：福島市）の矢細工遺跡（大木8式土器を主体とする）の発掘を始める。この前後、宮城県宮城郡浦戸村（現在：塩竈市）の船入島貝塚を18日より3～4日間試掘。ついでに桃生郡宮戸村（現在：石巻市）宮戸島の里浜貝塚を試掘。
- 9月 京都帝国大学濱田耕作博士の厚意で朝鮮史跡見学団の一員に加えられ、梅原末治助教授、東伏見邦英伯爵らと共に開城から京城に至り、ついで平壤に足を延ばし楽浪郡の諸遺跡を見学、ついで単独にて慶州まで視察旅行（～10月下旬）。
- 11月 朝日新聞・福島版に『白水行—白水阿弥陀堂のことども—』を連載。
- 12月 京都府相楽郡棚倉村綺田（現在：木津川市）の廃光明山寺跡第1次試掘。
- 1935年（昭和10） 22歳
- 2月 成城高等学校校友会誌『城』第20号に歴史的随想「綺田のほとり」を発表。
- 4月 京都帝国大学文学部史学科2回生となり、専攻を考古学に定めた（以前からの方針通り）。山内清男氏の原始文化研究会（本郷元町）において『東北旅行談』を講演。
- 7月 東京都北多摩郡三鷹村牟礼（現在：三鷹市）の自宅にこもり、古典ギリシア語の自習に熱中。
- 秋 三森定男氏を主幹として考古学研究会創設（幹事：長広敏雄、襦津正志、中村清兄の諸氏と角田文衛）。
- 9月 初旬、岩手県気仙郡大船渡村（現在：大船渡市）の大洞貝塚（ABC地点）の小規模発掘を実施し、A B地点において人骨を発見（出土土器片は現在名古屋大学保管）。
- 10月 京都府相楽郡上狛村（現在：木津川市）の高麗寺跡発掘調査。奈良県の史跡調査の一環として末永雅雄氏、亀井伸明氏と共に添下郡伏見村（現在：奈良市）新堂寺山において合葬陶棺を発掘調査。
- 11月 廃光明山寺跡第2次試掘（三森定男、平山敏治郎、藤岡謙二郎、澄田正一の諸氏が協力）。
- 1936年（昭和11） 23歳
- 2月 考古学研究会より『考古学論叢』第1輯刊行。

角田文衛博士年譜

- 3月 福島県岩瀬郡須賀川町（現在：須賀川市）の上人壇麿寺（岩瀬麿寺）跡を発掘調査。
- 4月 濱田耕作博士指導の下、三森定男、小林行雄氏らと共に香川県三豊郡仁尾町の小蔦島貝塚を発掘調査。
- 8月 船入島貝塚を試掘。また佐藤長氏（のち京都大学名誉教授）の助力を得て、宮戸島の里浜、室浜両貝塚を試掘。
- 10月 京都帝国大学梅原末治助教の希望により、末永雅雄氏を主査として小林行雄、藤岡謙二郎、佐藤長氏らと共に奈良県十市郡多武峰村（現在：桜井市）の天王山古墳の石室を実測。
- 1937年（昭和12） 24歳
- 2月 濱田耕作博士に随伴し、日伊交換学生としてイタリアに赴くことがほぼ決定し、その旨『東京朝日新聞』の2月6日号に掲載あり。
- 3月 京都帝国大学文学部史学科考古学専攻卒業。
- 4月 京都帝国大学文学部副手（考古学教室勤務）委嘱。濱田耕作博士夫妻の媒酌により岸本文子と結婚。京都市左京区鹿ヶ谷寺前町75番地に新居を構える。
- 5月 京都帝国大学大学院に入学（研究料免除）。
- 6月 濱田耕作博士が京都帝国大学総長に就任。
- 春～冬 『国分寺の研究』の編集と執筆に忙殺。
- 1938年（昭和13） 25歳
- 1月 長男・敦寛誕生。
- 7月 恩師・濱田耕作博士（京都帝国大学総長）腎臓炎により逝去。
- 8月 『国分寺の研究』上下2巻刊行（京都・考古学研究会より）。青森県上北郡天間林村の榎林貝塚を発掘調査。岩手県宮古市の欽ヶ崎貝塚を発掘調査。
- 1939年（昭和14） 26歳
- 4月 茨城県筑波郡八賀村（現在：つくばみらい市）の東栗山諸遺跡を発掘調査。三森定男、松田一政氏ら参加。秋田県南秋田郡湯西村（現在：男鹿市）の角間崎遺跡を試掘調査。
- 5月 文部省在外研究員兼日伊交換学生に選抜される（国際学友会）。
- 7月 鹿島丸にて神戸港出帆、イタリアに向かう。寺内寿一、大角岑生両大将の率いる軍事使節団（ドイツ行）と同船。
- 8月 深更、イタリア・ナポリ港に到着。ポンペイ遺跡を見学。のちローマへ。
- 10月 ローマ・マルゲリータ大通239のチェーザレ氏方に下宿。
- 11月 ローマ大学にてパロッチェーノ講師の講義『エトルスキ学』の聴講を始める。
- 1940年（昭和15） 27歳
- 1月 母・ふみ喘息性心臓病により逝去（満56歳）。
- 2月 長女・玖賀子誕生。
- 4月 ローマを発ち、ギリシアに飛び、アテネのアクロポリスの丘に登る。のちギリシア各地の遺跡を見学して23日、ローマに戻る。
- 9月 ローマを出発し、ブルガリア、トルコ、ルーマニアの諸国を旅行し、各国の博物館や遺跡を見学。10月5日、ローマに帰る。
- 11月 ローマを発ち、ポンペイ、ヘルクラネウムの遺跡見学。19日、ローマに戻る。
- 12月 本日よりロシア語の学習を開始。
- 1941年（昭和16） 28歳
- 3月 イタリア・オスティア遺跡見学。
- 6月 アッシジ、ペルージャを見学。
- 9月 ローマを発ち、ドイツ、オーストリア、スウェーデン、フィンランド、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリアの諸国を視察旅行し、11月12日ローマに戻る。
- 1942年（昭和17） 29歳
- 5月 満2年の留学期間はすでに過ぎていたが、欧州航路の靖国丸沈没以来日本からの便船はなく、帰国の

術がなかった。漸くソ連の通過査証がとれ、この日午後10時55分、同行の桜井三郎氏（内務書記官、のち熊本県知事）と共にローマより列車にて帰国の途につく。ブダペストで遠城寺宗徳氏（九州大学教授、小児科、のち九州大学および久留米大学学長）と徳永康元氏（のち東京外国語大学教授、ハンガリー語）が参加。9日、深更、ソフィアを経て、12日朝、イスタンブール着。13日、カスピ海を渡り、タシケント、ノヴォシヴィルスクを経てシベリア鉄道に乗り換え、満洲里到着は6月7日。帰国途中の5月22日、父・文平胃潰瘍により逝去（満60歳）。同日家督相続。

- 6月 ハルピンにて一行4人は解散し、角田は旅順、大連を経て船便にて神戸港に帰着（6月20日）。
- 12月 8月より11月まで主として東京にあって家事の整理に従い、12月、一家を挙げて京都市に移転し、左京区下鴨中川原町9番地に居を定める（現住所）。帰国後も引き続き文学部副手として考古学教室に勤務。

1943年（昭和18） 30歳

- 10月 京都帝国大学考古学教室主催の岡山県小田郡神島外町（現在：笠岡市）の高島遺跡を発掘調査。
- 11月 岡山県小田郡三谷村（現在：矢掛町）に赴き、吉備朝臣氏の埜域を発掘調査。

1944年（昭和19） 31歳

- 6月 京都帝国大学梅原末治教授の下で、滋賀県栗太郡治田村（現在：栗東市）の安養寺古墳を発掘調査。
- 7月 夜、召集令状を受け、翌日の夜、京都を立ち東京に向う。千葉県東葛飾郡富施村根戸高野台（現在：柏市）の留守近衛第2師団歩兵第2補充隊に入隊。臨時歩兵部隊に加えられ、東満洲虎頭の国境守備隊（第395部隊第4中隊）に編入。
- 11月 歩兵一等兵を命じられ、昼夜最前線の国境（烏蘇里江西岸）警備の任にあたる。

1945年（昭和20） 32歳

- 2月 次女・千春誕生。
- 3月 第395部隊解散。第265聯隊（牡丹江市）に編入。甲種幹部候補生に採用され、伍長の資格を与えられる。
- 7月 関東軍石頭予備士官学校（第13期生）に入学、猛訓練を受ける。
- 8月 関東軍石頭予備士官学校を卒業し、兵科見習士官に補された。この日、ソ連軍、国境突破して進攻。翌日夜からの撤退行軍の途中、12日ソ連軍戦車隊の追迫を受けて落伍。鏡箔湖付近を放浪ののち、湖の南辺にあった本隊に帰還。
- 9月 東京城外にて終戦による武装解除。
- 10月 この頃、ウラジオストックを経て帰国と欺かれ、貨物列車にて沿海州を北上し、シベリアに入る。そしてタイシュット地区第2収容所に収容される。
- 12月 本田寿吉少尉以下120名が転出し、タイシュットより24km北方の石灰山の収容所に配された。通訳兼副官として勤務。

1946年（昭和21） 33歳

- 6月 ソ連のHKBJ（内務人民委員部）に身許や経歴の取調べを受け何気なく欧州留学のことを話したため、留学の目的はスパイ行為ではなかったかとの嫌疑をかけられ、弁明に苦勞す。
- 11月 第11収容所の医務室の通訳となり、軍医馬場博少尉を助ける。馬場少尉と親交を深め、極寒の夜、『源氏物語』、ついで『万葉集』を講じた。

1947年（昭和22） 34歳

- 3月 通訳として第22収容所に配され（捕虜大隊長は、遠藤直之助大尉。彫刻家の佐藤忠良氏、経済に明るい近藤鳩三氏らがいた）、角田は友の会の副委員長を命じられ、各中隊を廻って日本文化の話をしたり、『日本新聞』の読み方の話をした。

1948年（昭和23） 35歳

- 3月 政令によって京都大学文学部副手廃嘱。
- 4月 行先不明のままタイシュットより汽車に乗り、翌日、イルクーツク第1収容所に送り込まれた。
- 5月 ソ連兵の政治部少佐某氏に連れられてイルクーツク博物館を訪ね館長に会う。また館長を訪ねてきた

角田文衛博士年譜

イルクーツク大学のアリエンボスキイ講師に紹介されたのち、イルクーツク大学、同図書館を見学。

7月 初旬、帰還者名簿が作られたが、その中には自分の名があり夢かとばかりよるこんだ。15日頃、第1収容所からの帰還部隊はイルクーツクを出発、ナホットカ到着（7月20日頃）。28日、ナホットカを引揚船・明優丸にて出発。朝、舞鶴市に上陸、復員、帰宅（7月29日）。

12月 同志社大学文学部講師委嘱（1967年3月まで）。

1949年（昭和24） 36歳

3月 願に依り京都大学大学院を退学（31日）。

4月 大谷大学文学部講師委嘱（1969年10月まで）。7月 大阪市立大学助教教授任命（法文学部歴史学研究室）。

1950年（昭和25） 37歳

1月 これより下旬にかけて『世界史地図』（山根徳太郎氏と共編）の担当分の作成に没頭。『欧州の四季』（大阪・三明社）刊行。

3月 国際古典考古学協会日本委員委嘱。

8月 大阪市立美術館開催の『古代世界史展』（11日～9月10日）の準備を担当。

1951年（昭和26） 38歳

1月 パロツティーンノ教授より来信。国際考古学会の委員委嘱。

4月 大阪市立大学による滋賀県東浅井郡湯田村（現在：長浜市）の雲雀山古墳群の第2号墳発掘調査に参加。

7月 奈良県教育委員会主催により、奈良県山辺郡都都野村（現在：奈良市）にある小治田安万侶の墓を発掘調査（調査主任）。28日午後4時、和銅銀錢10枚を発見。

8月 杉勇氏、のち佐藤長氏来訪（別々に）。雑誌「古代学」の創刊について話し合う。榎原考古学研究所研究員委嘱（1963年3月31日まで）。

10月 同学の士と共に古代学協会を創設（1日）。「古代学」創刊号の第1回編集会議に出席（10日、大阪市立美術館）。

11月 古代学協会の運営資金とするため、家蔵ヴィーナス（銅像）の処分方を大阪市立美術館にて望月信成館長に依頼（12月18日、代金10万円を受領）。

1952年（昭和27） 39歳

1月 古代学協会の機関誌「古代学」第1巻第1号（季刊）を創刊。古代学協会常務理事に就任。

4月 大阪市立大学の考古学的調査として直木孝次郎講師、藤原光輝副手、その他の協力を得て、雲雀山古墳群第3号墳を発掘調査。

6月 大阪市立大学法文学部に大阪城総合研究団（代表：望月信成氏）が結成され、考古学部門担当となる。

10月 大阪城総合研究団の一員として大阪市の難波宮跡を試掘（考古学部門担当）。

11月 大阪市立大学による福井県足羽郡下文珠村帆谷（現在：福井市）における東大寺領糞置荘の発掘調査実施、指導。

1953年（昭和28） 40歳

3月 三女・伊都子誕生。

5～6月 この頃、イラク国考古局長ナジ・アル・アジル博士よりイラクでの発掘を許可する用意のある旨来信。

7月 大阪市立大学教授（文学部）に昇格。

10月 古代学協会の国内における初めての発掘調査を、福井県足羽郡下文珠村二上（現在：福井市）の二上・弥生文化遺跡において実施、指導（これ以降、日本各地で発掘調査を実施）。

1954年（昭和29） 41歳

5月 この頃より東京大学の江上波夫教授と協力してイラクにおける考古学的発掘調査の計画を進める。調査は東京大学が主催となり、江上教授が隊長、角田は副隊長に内定（のち大阪市立大学の都合により副隊長を辞退）。

- 7月 『古代学序説』（山川出版社）刊行。
- 1955年（昭和30） 42歳
- 3月 四女・つぶら誕生。
- 10月 福井大学非常勤講師委嘱（1956年3月31日まで）。
- 1956年（昭和31） 43歳
- 1月 古代学協会の財団法人認可申請書を整える。
- 6月 古代学協会京都事務所を自宅の近くに開設。
- 1957年（昭和32） 44歳
- 1月 財団法人古代学協会の設立が認可され（文部省）、その常務理事に就任（18日）。
- 11～12月 初めて（財）古代学協会による平安京跡（勸学院跡）の発掘調査を開始（これ以降、多数の発掘調査を実施）。
- 1959年（昭和34） 46歳
- 1月 相沢忠洋氏の案内で群馬県新田郡笠懸村の岩宿遺跡、勢多郡新里村の武井遺跡を視察。
- 10～12月 （財）古代学協会による平安宮（大極殿跡・京都市上京区千本丸太町）の第1次発掘調査を指揮（これ以降、宮内各所で発掘調査を実施）。
- 10月 （財）古代学協会第1回公開講演会において講演（『キングオブキングス』（三和銀行京都支店）、これ以後、主な講演のみ記載）。
- 1960年（昭和35） 47歳
- 8月 NHK教育テレビ『文明の起源』（第19回ステップとオアシス—中央アジア文明—）に石田英一郎東京大学教授と出演。
- 9月 NHKテレビの『古代文明の展望』において三上次男氏と対談。
- 1961年（昭和36） 48歳
- 7月 西田直二郎博士夫妻、ライシャワー大使夫妻と京都市粟田口の都ホテルの8階大ホールにて会見。池田源太氏、西井芳子氏陪席。
- 1962年（昭和37） 49歳
- 3月 大分県大分市坂ノ市丹生台地において旧石器発見の報を受け現地視察。
- 10～11月 （財）古代学協会丹生遺跡発掘調査団の副団長（団長：望月信成氏、当時、（財）古代学協会理事長）として大分県丹生遺跡第1次発掘調査を指揮（最終年＜第6次＞：1967年）。
- 1963年（昭和38） 50歳
- 4月 榎原考古学研究所指導研究員委嘱（1974年3月31日まで）。ライシャワー氏夫妻と共に京都大学医学部附属病院入院中の西田直二郎博士を見舞う。
- 7月 『佐伯今毛人』（吉川弘文館・人物叢書）刊行。
- 11月 『承香殿の女御』（中央公論社）刊行。
- 1964年（昭和39） 51歳
- 8月 大阪市美術館主催『ロシア秘宝展』に寄せて、日本経済新聞社大阪本社において館長（当時）望月信成氏と対談。
- 12月 『中務典侍』（財）古代学協会・平安叢書）刊行。
- 1965年（昭和40） 52歳
- 6月 （財）古代学協会福岡支部発会式において記念講演（『紫式部の身辺』）、（九州大学）。
- 11月 『紫式部の身辺』（財）古代学協会・平安叢書）刊行。
- 12月 『律令国家の展開』（塙書房）刊行。
- 1966年（昭和41） 53歳
- 5月 『紫式部とその時代』（角川書店）刊行。
- 1967年（昭和42） 54歳
- 3月 （財）古代学協会が日本銀行より、同行の京都支店の土地・建物の譲渡を受けて平安博物館を経営す

角田文衛博士年譜

るにあたり、その責務を果たすため、願に依り大阪市立大学教授を退任（31日）。

- 4月 平安博物館教授に補され、同時に館長に就任（1日、日本銀行からの土地・建物の正式譲渡は18日付）。
- 1968年（昭和43） 55歳
- 2月（財）古代学協会理事長代理に就任。
- 4月 文学博士の学位を受ける。
- 5月 『若紫抄』（至文堂）刊行。
- 1969年（昭和44） 56歳
- 9～10月 アメリカ、イギリス、デンマーク出張。
- 1970年（昭和45） 57歳
- 5月 十二指腸潰瘍手術（石野病院）。
- 8月 『王朝の映像』（東京堂出版）刊行。
- 1971年（昭和46） 58歳
- 9月 『増補古代北方文化の研究』（新時代社）刊行。
- 1972年（昭和47） 59歳
- 2月 京都市文化観光資源調査委員委嘱（1979年2月13日まで）。
- 1973年（昭和48） 60歳
- 4月 還暦（4月21日、記念祝賀会開催：京都大学楽友会館）。
- 1974年（昭和49） 61歳
- 4月 奈良県立橿原考古学研究所研究員委嘱（1976年2月13日まで）。
- 10月 広島大学文学部講師委嘱（1975年3月31日まで）。
- 1975年（昭和50） 62歳
- 1月 『椒庭秘抄—待賢門院璋子の生涯—』（朝日新聞社）刊行。
- 12月（財）古代学協会専務理事に就任（22日）。
- 1976年（昭和51） 63歳
- 秋 冷泉家の歌会「玉緒会」の結成に助力する。
- 12月 NHK教育テレビ（NHK文化シリーズ・生活の中の日本史『日本人のすまい・第21回几帳とびょうぶ』）に出演。
- 1977年（昭和52） 64歳
- 3月 『王朝の明暗』（東京堂出版）刊行。
- 7月 京都ロータリークラブ入会。
- 1978年（昭和53） 65歳
- 3月 NHK総合テレビ『女性手帳：王朝の女性（藤原高子、待賢門院璋子、小督局）』に出演。
- 4月（財）古代学協会東京支部18日会において研究発表（『源平の合戦』）。
- 9月 『平家後抄』（朝日新聞社）刊行。
- 1979年（昭和54） 66歳
- 10～11月 デンマーク、ノルウェー、ドイツ、フランス、イタリア、ギリシア史跡見学。
- 1980年（昭和55） 67歳
- 4月 冷泉家御文庫の開扉に貢献。
- 6月 『ヨーロッパ古代史論考』（平凡社）刊行。
- 9月 『日本の女性名（上）』（教育社）刊行。
- 1981年（昭和56） 68歳
- 6月 福島県伊達郡桑折町の種徳（祖父の諱）美術館が開館。
- 10～11月 エジプト・アコリス遺跡第1次発掘調査を視察。（財）古代学協会の海外における初めての発掘調査を指導（最終年＜第12次＞：1992年）。同時にデンマーク、ドイツ、ブルガリア、イタリア、ギ

ロシア、エジプト史跡見学。

1982年(昭和57) 69歳

- 3月 京都市文化財保護審議会委員委嘱(満80歳定年:1994年3月31日まで)。
- 5月 日本考古学協会総会(早稲田大学)において研究発表(『考古学上におけるメタフィジカ』)。
- 12月 平安博物館開館15周年記念秋季学術公開講演会において講演(『藤原定家の小倉山荘』)。

1983年(昭和58) 70歳

- 3月 『王朝史の軌跡』(学燈社)刊行。
- 4月 古稀(この日、記念祝賀会開催:京都ホテル・エジンバラ)。『京の朝晴れ』(角川書店)刊行。『平安の春』(朝日新聞社)刊行。
- 8月 実弟・小林文次(日本大学教授、建築史)逝去(28日、満65歳)。

1984年(昭和59) 71歳

- 7月 『角田文衛著作集』全7巻(京都・法蔵館)刊行開始(～1986年9月完結)。
- 10月 エジプト・アコリス遺跡第4次発掘調査視察、同時にパキスタン、エジプト史跡見学。

1985年(昭和60) 72歳

- 7月 (財)古代学協会札幌支部、釧路市立博物館共催特別講演会において講演(『源平合戦論』)。
- 9月 (財)古代学協会福岡支部創立20周年記念古代学講演会において講演(『考古学とは何か』)。
- 11月 福島県伊達郡桑折町より功労賞を受ける。

1986年(昭和61) 73歳

- 4月 叙勲(勲三等瑞宝章)受章(6月14日、祝賀会開催:京都ホテル・松の間)。
- 5月 叙勲の勲章及び勲記の伝達式あり(東京・教育会館)。ついで皇居において昭和天皇の御祝辞あり。
- 6月 平安博物館友の会解散総会(京都府立ゼミナールハウス)記念講演会において講演(『京都と平泉』)。
- 8月 実妹・藤井多美逝去(満71歳)。
- 9月 『角田文衛著作集』全7巻(京都・法蔵館)出版祝賀会開催(平新)。
- 11月 福島県県外在住功労者知事表彰受賞(東京・ホテルオークラ)。

1987年(昭和62) 74歳

- 4～5月 中国史跡見学(北京、鄭州、洛陽、西安、上海)。
- 6月 『日本の女性名(中)』(教育社)刊行。
- 9～10月 イタリア・シチリア島史跡見学、続いてエジプト・アコリス遺跡第7次発掘調査視察。
- 10月 濱田耕作博士没後50年記念講演会において講演(岸和田市立文化会館・マドカホール)。
末永雅雄博士『岸和田市と濱田耕作先生』、角田文衛『濱田耕作先生の学問』、井上靖氏『最近わたしが思うこと』。

1988年(昭和63) 75歳

- 4月 トルコ西海岸史跡見学。
- 5月 『日本の女性名(下)』(教育社)刊行。
- 9月 (財)古代学協会は平安博物館を解散し、古代学研究所を新設、同時に教授に補され、所長に就任(2008年3月31日まで)。
- 10月 (財)古代学協会北陸支部開設(4月1日)記念講演会において講演(『古代学とは何か』)。
- 10～11月 ドイツ、イタリア、エジプトへ出張。

1989年(平成元) 76歳

- 6月 韓国史跡見学旅行(ソウル、慶州:江坂輝彌博士の案内)。
- 8月 大動脈瘤手術(東京医科歯科大学附属病院にて鈴木章夫教授執刀)。
- 12月 (財)古代学協会によるイタリア・ポンペイ遺跡第1次地表調査視察(最終年<第4次>:1992年)。
同時に同国内史跡見学(タルクイーニア、チェルヴェートリなど)。

1990年(平成2) 77歳

- 4月 (財)古代学協会理事長に就任(6月6日祝賀会開催:京都全日空ホテル・平安の間)(2007年6月26

角田文衛博士年譜

日まで)。喜寿（9日 記念祝賀会開催：京都文化博物館別館）。

1991年（平成3） 78歳

- 6月 東京・川満外科に入院し、両足の親指手術。6月23日に退院。
- 9月 シルクロード史跡見学（新疆ウイグル自治区<ウルムチ>、トルファン、敦煌など）。
- 11月 『平安京散策』（京都新聞社）刊行。『角川日本地名大辞典』全47巻別冊2巻（角川書店）の編集に関与し、毎日出版文化特別賞を受ける。

1992年（平成4） 79歳

- 4月 名古屋大学に角田コレクションを寄贈。
- 5月 「大島本『源氏物語』の由来」（『古代文化』第44巻第5号、<影印本>「大島本源氏物語」別巻所収）
- 6月 シリア史跡見学。
- 8月 白内障（右眼）の手術（入院せず）。
- 10月 『王朝の残映—平安時代史の研究—』（東京堂出版）刊行。
- 11月 イタリア・ポンペイ遺跡第4次地表調査視察。同時に南イタリア、シチリア島史跡見学。
- 12月 同志社大学文化史学会総会において講演（『環濠集落とその時代』）。

1993年（平成5） 80歳

- 3月 『転換期の考古学』（雄山閣）刊行。
- 4月 傘寿（9月18日、記念祝賀会開催：京都全日空ホテル・朱雀の間）。
- 9月 『京の夕映え』（東京堂出版）刊行。
- 10月 イタリア・ポンペイ遺跡第1次発掘調査視察（本格的発掘調査開始、18日鋤入れ式、最終年<第6次>1988年）。
- 12月 再び、イタリア・ポンペイ遺跡第1次発掘調査視察。同時にポンペイ近郊の史跡見学。

1994年（平成6） 81歳

- 4月 貧血のため、京都警察病院に入院・加療。
- 4～5月 イタリア・ポンペイ遺跡第2次発掘調査視察。同時に北イタリア史跡見学。
- 11～12月 再び、イタリア・ポンペイ遺跡第2次発掘調査視察。

1995年（平成7） 82歳

- 2月 日本興業銀行より古代学協会へのユーリア・ドムナの頭像（大理石製）の寄贈に助力。
- 3月 イタリア出張（ポンペイ、ナポリ）（西方古典文化研究所<略称ポンペイ研究所>開設のための不動産購入契約をナポリにて締結）。
- 6月 （財）古代学協会による平安建都1200年記念事業『平安時代史事典』、『平安京提要』二大出版の功績に対し、監修者として京都府知事より表彰（19日）。イタリア出張（与謝野薫文部大臣一行のポンペイ遺跡見学希望による。しかし当日函館ハイジャック事件発生。22日早朝、ナポリにて中止の連絡を受ける）。予定変更により、ポンペイ考古監督局長に挨拶のほかポンペイ近郊遺跡見学（21～28日）。
- 10月 イタリア・ポンペイ遺跡第3次発掘調査視察。同時にシチリア島やローマ近郊の史跡見学。このうち21～22日両日、イタリア共和国・シチリア島アグリジェント市主催国際会議に出席。テーマ『生態、環境における考古学財の保護』において角田分担発表（『都市の発展における考古学財の保護：日本の場合』）。

1996年（平成8） 83歳

- 8月 フランス、イングランド北方のハドリアヌス帝の長城等、史跡見学。
- 10月 イタリア・ポンペイ遺跡第4次発掘調査視察。同時にイタリア・ネミ湖近郊、ドイツ・ベルリン及び西南地方史跡見学。
- 11月 愛知県岡崎市「歴史街道」特別講座で講演（『待賢門院璋子の哀歎』）。東京都府中市教育委員会主催講演会において講演（『国府と国分寺』）。
- 12月 京都洛陽ライオンズクラブ主催講演会において講演（『紫式部と平安京』）。

1997年（平成9） 84歳

- 5月 日本考古学協会第63回総会において講演（『ポンペイ遺跡の発掘調査』）（立正大学）。
- 8月 ロシア、ラトヴィア見学旅行。
- 10～11月 イタリア・ポンペイ遺跡第5次発掘調査視察。同時にサルデーニャ島の史跡見学。
- 1998年（平成10） 85歳**
- 5月 イタリア・ポンペイ遺跡調査出土遺物整理作業視察。ローマ滞在。同時に、トルコ西海岸史跡見学。
- 7月 オランダ、ノルウェー見学旅行。
- 8月 長男・敦寛逝去（満60歳）。
- 9月 日本考古学協会創立50周年記念講演会において分担講演（『勃興期の考古学界—濱田耕作（青陵）の時代—』）（京都会館第2ホール）。
- 11月 イタリア・ポンペイ遺跡補足発掘調査視察。同時に北イタリア・トリノ方面および南イタリア・シバリ史跡見学。
- 1999年（平成11） 86歳**
- 1月 小渕恵三首相夫妻、樋口廣太郎経済戦略会議議長夫妻のポンペイ遺跡並びにナポリ国立考古学博物館見学希望により、案内のためイタリア出張。
- 7月 大分県丹生遺跡出土の石器と類似の石器出土の報を受け、宮崎、大分両県に視察旅行。
- 10～11月 イタリア出張（ローマ、ポンペイ）、同時にギリシア・ペロポネソス半島史跡見学。
- 2000年（平成12） 87歳**
- 5～6月 ギリシア・マケドニア地方、トルコ西南地方史跡見学。
- 10月 南フランスのローマ時代遺跡、イタリア・ポンペイ近郊史跡見学。文化財保護法50周年記念・文化財保護功労者表彰受賞（30日）。
- 2001年（平成13） 88歳**
- 4月 米寿（6月2日、記念祝賀会開催：京都国際ホテル・二条の間）。フランス・ドルドーニュ地方・ヴェーゼル溪谷とピレネー山麓の洞窟遺跡見学。
- 6月 『薄暮の京』（東京堂出版）刊行。
- 10月 ポンペイ考古監督局、在ローマ日本大使館、塩野七生氏挨拶、チュニジア遺跡見学。
- 2002年（平成14年） 89歳**
- 4月 心臓大動脈弁置換手術。
- 6月 北陸支部共催 日本西アジア考古学会第7回総会・講演：「考古学の基本問題」。
- 7月 三笠宮家訪問。
- 8月 （社）紫式部顕彰会会長に就任（2008年5月14日まで）。
- 9月 武田病院入院。
- 11月 日本会議・国会議員懇談会出席。故江上波夫先生告別式参列。
- 2003年（平成15年） 90歳**
- 3月 『二条の後 藤原高子—業平の恋』（幻戯書房）刊行。
- 5月 全国地名保存連盟総会出席。日本考古学協会第69回旧石器問題特別委員会参加。
- 8月 武田病院入院。
- 9月 浜田青陵賞授賞式出席（20日）。卒寿（27日、記念祝賀会開催：京都ブライトンホテル・祥雲の間）
- 2004年（平成16年） 91歳**
- 5月 （社）紫式部顕彰会・紫式部学術賞授賞式出席。
- 6月 武田病院入院。
- 8月 京大病院入院。
- 10月 ポンペイ発掘調査終了挨拶（日本大使館、ポンペイ考古監督局など）並びにナポリ大学共同研究調印。
- 2005年（平成17年） 92歳**
- 1月 北野天満宮菅原道真公歌碑除幕式出席。
- 2～8月 この間、短期の入退院をくりかえす。

角田文衛博士年譜

- 5月 (社)紫式部顕彰会・紫式部学術賞授賞式出席。(財)古代学協会・鈴木政志会長告別式(13日逝去)参列
- 7月 第1回角田文衛先生を囲む会(若手研究者数名との集い)出席。故鈴木会長お別れ会出席。
- 8月 妻・文子(有智子)逝去(19日、心不全)。
- 9月 『古代学の展開』(山川出版社)刊行。
- 11月 第2回角田文衛先生を囲む会(若手研究者数名との集い)出席。京都大学考古学談話会出席。泉孝英先生出版(『日本・欧米間、戦時下の旅』、淡交社)を祝う会出席。
- 2006年(平成18年) 93歳
- 1月 武田病院入院(23日～2月16日)。
- 4月 『日本の女性名』(国書刊行会)復刊。
- 5月 (社)紫式部顕彰会・紫式部学術賞授賞式出席。
- 6月 京都ロータリー兄弟会(京大卒業生)出席。
- 9・10月 短期入院。
- 11月 有光教一先生白寿記念祝賀会出席。
- 2007年(平成19年) 94歳
- 1月 檀原考古学研究所いのしし会出席。『紫式部伝』(法蔵館)刊行。
- 3月 瀬戸内寂聴先生文化勲章受章お祝いの会出席。音羽病院入院(12日～4月5日)。
- 5月 (社)紫式部顕彰会・紫式部学術賞授賞式出席。
- 6月 『平城時代史論考』(吉川弘文館)刊行。(財)古代学協会理事長辞任、名誉会長委嘱(26日付)。源氏物語千年紀委員会総会出席。
- 7・12月 短期入院。
- 11月 監修『京都源氏物語地図』(思文閣出版)刊行。
- 2008年(平成20年) 95歳
- 1～5月 入退院をくりかえす(音羽病院)。第26回京都府文化賞〔特別功労賞〕受賞(31日)。
- 5月 12日 退院。
14日 逝去(23時59分、急性呼吸器不全)。18日 通夜(戒名:教導院考誉紫雲文衛居士)。19日 葬儀・告別式、火葬。24日 日本考古学協会設立六十周年記念・功績に対する表彰。
- 6月 10日 従四位叙位。28日 四十九日法要、納骨:念仏寺(京都市右京区嵯峨島居本化野町)。
- 7月 30日 監修(片桐洋一氏と共同)『源氏物語と紫式部—研究の奇跡』(角川書店)刊行。
- 2009年(平成21年)
- 3月 7日 角田文衛先生を偲ぶ会(財団法人古代学協会主催)、京都ホテルオークラ・暁雲の間において開催。